



第10回（2025年度）日本アレルギー学会 働き方改革推進奨励賞受賞者

日本アレルギー学会では、ワーク・ライフバランスの向上に関する経験や工夫はすべての会員に有用であると考え、2016年度より「奨励賞」を設け、男女共同参画の理念も含めた働き方改革活動を積極的に推進している会員、または所属機関を表彰・広報しております。2025年度の第10回日本アレルギー学会働き方改革推進奨励賞は、会員及びその所属団体を対象に、学会誌及び学会ホームページにて公募し厳正なる選考の上、2026年1月の理事会において以下の通り受賞者を決定いたしました。なお、授賞式は本年10月、第75回学術大会の働き方改革推進委員会企画セミナー内にて行われる予定です。

受賞者

相原 道子先生（横浜市立大学）

相原先生は、我が国で従来、女性の参画が少なかった「大学・大学病院の意思決定層」において、先駆的な道を切り拓いてこられました。

所属大学では初の女性臨床系主任教授や医学部を有する国公立総合大学初の女性学長等の要職を歴任され、多様な人材が能力を発揮できる組織運営を実践し、現場の働き方改革を力強く推進されました。また、行政や関係団体においても、女性医師等キャリア支援モデル事業を全国規模で主導し、構造的な改革を実現されました。

本学会においても、皮膚アレルギー領域を中心に後進の育成と学術的水準の向上を牽引され、本学会の発展に大きく寄与されています。

相原先生のご尽力は、単なる女性活躍推進にとどまらず、医療・教育現場の持続可能性を高める働き方改革の本質を体現するものであり、後進の医療職にとって大きな指針となっています。

斎藤 博久先生

（国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー感染研究部）

斎藤先生は、アレルギー領域の研究・臨床の発展に大きく貢献されるとともに、時代に即した働き方改革を研究室運営で実践し、多くの研究者・医師を育成してこられました。

先生の研究室は、互いに助け合う協働的な環境が特徴であり、国際的にも高く評価される成果を継続的に発表されてきました。研究成果の創出と健全な労働環境の両立を実現するその姿勢は、働き方改革の模範となりました。また、育児中の女性医師・研究者のキャリア継続を支援し、男女共同参画の推進にも多大な貢献をされてきました。

部下に長時間勤務を強いることなく、自主性を尊重する効率的で持続可能な仕組みを構築された結果、学会の中心で活躍する優れた人材を数多く輩出されており、斎藤先生が実装された改革は、次世代の研究者・医師の活躍へと確実に繋がっています。